

平成 13 年 11 月 9 日

各位

平成 14 年 6 月期第 1 四半期の業績等の概況

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
(コード番号 7707)

本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88
問 合 せ 先 取締役 経営企画部長 秋本 淳
T E L 047-303-4800

1. 当企業集団の業績

(1)平成 14 年 6 月期第 1 四半期(平成 13 年 7 月 1 日～平成 13 年 9 月 30 日)の業績
(百万円未満切り捨て)

	平成 14 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)	対前年同期 増減率	平成 13 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)	参考 平成 13 年 6 期 (通期)
	百万円	%	百万円	百万円
売 上 高	288	22.0	369	1,643
売 上 総 利 益	97	15.2	84	382
営 業 利 益	99	(注 1)	41	239
経 常 利 益	102	(注 2)	44	287

(注) 1. 当期がマイナス値のために増減率を表示しておりません。(58 百万円減額)
2. 当期がマイナス値のために増減率を表示しておりません。(58 百万円減額)

(2)セグメント別の売上高内訳
(百万円未満切り捨て)

	平成 14 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同期 増減率	平成 13 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		参考 平成 13 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	%	百万円	%	百万円	%
D N A 自動抽出装置	160	55.6	2.5	164	44.5	695	42.3
その他理化学機器	25	8.9	43.1	45	12.3	425	25.9
そ の 他 製 品	47	16.4	40.2	79	21.4	205	12.5
商品(プラスチック消耗品)	54	19.1	31.9	80	21.8	316	19.3
合 計	288	100.0	22.0	369	100.0	1,643	100.0

(3) 主な資産及び負債の変動について

(百万円未満切り捨て)

項目	平成 14 年 6 月期 第 1 四半期 (平成 13 年 9 月 30 日現在)	増減額	参考 平成 13 年 6 月期 (平成 13 年 6 月 30 日現在)
	百万円		百万円
(資産)			
現金及び預金	1,359	276	1,082
有価証券	100	100	-
(負債)			
短期借入金	604	538	66
一年内返済予定の長期借入金	228	104	124
長期借入金	761	136	897

(注) 1. 項目ごとの変動幅が総資産の 1% を超えるものについて記載しております。

- 注意事項 1. 当期において子会社を設立しているため、当四半期決算より連結決算を実施しております。したがって、前年同四半期および前年通期の数字は当社単体の数字であります。
2. 当四半期および前年同四半期の数字に関しましては、監査法人の監査を受けておりません。

2. 当企業集団の業績の概況

(1) 具体的な取組み

グローバルな事業運営体制の構築

今後の本格的なグローバル展開に対処するため、平成 13 年 7 月に海外 100% 子会社 3 社を設立いたしました。米国の PSS BiO Instruments, Inc. においては、新たな業務提携先の開拓、大学・研究機関などへの営業活動、展示会や学会への積極的な参加を通じた技術情報交流などを目的としております。またドイツの PSS Europe GmbH においては、同様の活動に加え欧州 OEM 先との連携強化を目的としております。更に米国の Bio Strand, Inc. においては、新型 DNA チップであるバイオストランドの製品化を目指し活動開始しております。これら海外 3 社に関しましては、活動を開始して間もないため、今年度の業績への貢献は期待できませんが、来年度以降は大きく寄与するものと期待しております。既に、欧州では新たな OEM 見込先との具体的な交渉や既存 OEM 先への新機種導入の交渉に入っております。

DNA 自動抽出装置の新機種開発

遺伝子研究の現場においては、試薬および自動化機器が必要であります。当社はこれまで、試薬メーカーに対して OEM 供給を行うことで、自社製品の自動化機器を販売してまいりました。また、現場における多様なニーズに応えるため、その品揃えを強化してまいりました。

第 1 四半期においては、DNA 自動抽出装置の新機種として、ハイスループット多目的システム「SX-96GC」の製品化に成功しました。また、大容量自動核酸抽出装置「HVSX-8G」および超小型自動核酸抽出装置「SX-6GC」の 2 機種についても、年明けには販売開始の目処がたっております。これらの 3 新機種に関しましては、これまでの戦略を方向転換し、国内では自社ブランドでの本格販売を開始いたします。特に、大容量および超小型の 2 機種に関しては試薬販売も手掛ける方針であります。一方、海外においては OEM 供給の可能性もあり、その方向性を検討中であります。

業務効率化および社内体制の構築

本年 4 月に松戸新社屋へ移転し、旧本社(稲城市)・研究所(松戸市)・行徳作業所(市川市)は閉鎖いたしました。これにより本社・営業、研究開発、消耗品アセンブリの各機能は新本社に集約され、効率的な会社運営を実現させています。また当第 1 四半期においては、これらの一環として 8 月末をもって京都営業所を閉鎖いたしました。したがって、現在、国内施設は全て松戸新社屋に集約化されております。

更に施設集約化の一方で、研究開発および営業体制の強化を目的とした人材獲得を進めており、本日(11/9)現在、役員員含めてグループ全体で 49 名(前期末比 + 7 名、別途臨時雇用者 10 名前後)となっております。今後についても、研究開発のスピードアップおよび自社営業体制の確立を目的として、人材獲得を進めていく予定であります。

(2) 売上高

当社グループの第1四半期の売上高は288百万円(前年同期比22.0%減少)となりました。売上減少の要因は、その他理化学機器に含まれる受託開発や消耗品関連の減少であります。利益に対する影響はほとんどありません。各セグメント別の売上高は以下のとおりであります。

DNA 自動抽出装置

当第1四半期は、39台の販売実績となり、売上高160百万円(前年同期比2.5%減)とほぼ前年同期並みの実績となりました。臨床検査センター向けの大型装置(感染症検査用)の出荷も数台あったことから、単価は上昇しております。OEM製品中心であり受注がまとまって入ることが多いため、四半期毎の実績は下表のとおり変動があります。尚、主力OEM先であるRoche Diagnostics GmbH向けに量産が開始されたのは、平成12年6月期の第3四半期からであります。

(千円未満切り捨て)

	平成12年6月期				平成13年6月期				平成14年6月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
販売台数	10	33	62	37	59	65	47	70	39
金額(千円)	100,124	274,831	219,632	97,724	164,415	191,229	140,446	199,878	160,332
単価(千円)	10,012	8,328	3,542	2,641	2,786	2,941	2,988	2,855	4,111

その他理化学機器

特注の分注装置の販売を中心に売上高25百万円(前年同期比43.1%減)となりました。前年同期に関しては、NEDO(注1)からJBIC(注2)を通じた委託開発事業の売上が寄与しておりましたが、今年度はこれらの委託事業を行っておりませんので、売上の減少を招きました。これらは研究開発活動の一環として手がけているものであり、薄利であるため収益への影響はほとんどありません。

(注1)NEDO・・・新エネルギー・産業技術総合開発機構

(注2)JBIC・・・社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

その他製品

自社加工のプラスチック消耗品および装置メンテナンスを中心に売上高47百万円(前年同期比40.2%減)となりました。利幅の薄い一部のプラスチック消耗品(一般の消耗品)に関しては、平成13年1月より取扱いを中止しているため前年同期比で減収となりました。今後は、DNA自動抽出装置に関連した消耗品の販売やメンテナンス活動により、この影響を十分にカバーできるものと考えております。

商品(プラスチック消耗品)

商品のプラスチック消耗品は、売上高54百万円(前年同期比31.9%減)となりました。一昨年からDNA自動抽出装置の新規OEM製品の販売に伴って、当セグメントは順調に売上を増加させてまいりましたが、当第1四半期に関しては、在庫調整の影響を受けました。特に、Roche社およびGenovision社等の海外向け消耗品が落ち込みました。しかし、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後に関しては特段の懸念はないものと考えております。

(3) 売上総利益

当第1四半期は、DNA自動抽出装置の新製品の発売が無く、仕様の決まった既存製品の販売が中心であったことから、概ね良好な利益率を確保できました。また、その他理化学機器に関しては委託開発事業のような利幅の薄いプロジェクトが無かったこと、更に利幅の薄い消耗品の取扱いを中止したことなどが影響し、売上総利益率が33.7%(前年同期比10.9ポイント上昇)と大幅に改善し、売上総利益は97百万円(前年同期比15.2%増)と増益を確保いたしました。

(4) 営業利益、経常利益

営業利益は 99 百万円 (前年同期比 58 百万円減)、経常利益は 102 百万円 (前年同期比 58 百万円減)と赤字計上となりました。販売費及び一般管理費は197 百万円 (前年同期比 56.8%増)でしたが、その主な要因といたしましては、開発費75 百万円 (前年同期比 54.7%増)の計上や新たに設立した海外 3子会社の経費負担22 百万円 (当四半期に新たに発生)などがあげられます。

研究開発活動や海外展開にかかる費用は、現時点では収益の圧迫要因であります。当社グループの今後の事業展開において必要不可欠な先行投資であると考えております。

(5) 研究開発活動

当四半期の研究開発活動は、前四半期に引続き下記テーマに取り組みました。開発費として 75 百万円を費用計上しております。

DNA 自動抽出装置の多機種化

当社の基幹技術である「Magtration Technology」を核として、きめ細かく機器の仕様を広げることで、追加的な開発費用を抑制しつつ、ニーズに応えながら市場を拡大していく方針であります。当第 1四半期に関しましては、ハイスループット多目的システム「SX-96GC」の製品化に成功し、大容量自動核酸抽出装置「HVSX-8G」、超小型自動核酸抽出装置「SX-6GC」の製品化に目処をつけることができました。今年度下期には販売を開始する予定です。

糸状 DNA チップ「バイオストランド」とその測定装置の開発

現在、一般に利用されているDNA チップは、スライドガラスなどの平面基盤上に予め様々な種類のDNA 断片を数百～数千種類固定する方法で作られるものです。一方、当社の独自技術によるDNA チップ「バイオストランド」の特徴は、糸状の繊維素材にDNA 断片を固定し、円柱状のピンに巻き付けた立体的な形状にあります。

このDNA チップが完成すれば、生産工程が簡易なことから製造コストが抑制できるとともに、従来の技術では困難であったDNA の抽出工程から解析工程までの一貫自動化と所要時間の短縮化が可能になります。将来的には、臨床分野での利用も見据えた戦略製品とすべく、現在、米国の100%子会社にて開発に取り組んでおり、来年度下期には製品化を予定しております。

ビーズ型 DNA チップ「蛍光バーコードビーズ」とその測定装置の開発

当社の基幹技術である「Magtration Technology」をDNA 解析に応用した技術で、磁性体粒子の表面に蛍光標識したDNA 断片を固定し、蛍光検出することにより目的DNA の存在の有無を判断するものです。数種類の蛍光色素を組み合わせ、標識パターンを変えることで、一度に数百種類のDNA 検出を可能とするものであります。

現在、産業技術総合研究所とビーズ開発を、古河電気工業と測定装置の開発を共同して進めており、来年度上期には製品化を予定しております。「バイオストランド」同様、一貫自動化装置に対応した当社独自の解析技術であります。

遺伝子増幅工程の高速化技術「Swing-PCR」の開発

DNA の抽出工程から解析工程までの間には、遺伝子の増幅工程が必要なケースが多く存在します。これら工程の一貫自動化装置を完成するために、最も一般的な遺伝子増幅技術であるPCR 法の工程を短時間化し、かつ自動化装置に対応させる必要があります。「Swing-PCR」は、遺伝子増幅工程の効率とスピードを大幅に改善し得る当社独自の技術であり、開発に取り組んでおります。

全自動SNPs 測定装置「MagSNiPer」(マグ・スナイパー)の開発

現在注目されているSNPs 解析には、DNA の「抽出 増幅 検出」工程が不可欠とされていますが、当技術は増幅工程を経ることなくSNPs 解析を行おうというものであります。「Magtration Technology」と組み合わせることで、核酸抽出からSNPs 測定に至るまでを高速処理するコンパクトな装置にすることを目的としており、現在開発中であります。

3 . その他

(1)資本金、発行済株式数、潜在株式数の状況
当第 1四半期における変動はありません。

(2)役員の変動

取締役高橋正明は、平成 13 年 9 月 13 日開催の定時株主総会において新たに選任され、平成 13 年 10 月 1日に就任いたしました。

常勤監査役であった鈴木繁は任期満了により退任いたしました。常勤監査役松野卓也および監査役(非常勤)鈴木啓靖の両名は、平成 13 年 9 月 13 日開催の定時株主総会において新たに選任され、同日就任いたしました。

(3) 第1四半期連結財務諸表
第1四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	平成14年6月期第1四半期 (平成13年9月30日現在)
(資産の部)	
現金及び預金	1,359
受取手形及び売掛金	334
有価証券	100
たな卸資産	287
その他	37
流動資産合計	2,118
有形固定資産	957
無形固定資産	1
投資その他の資産	47
固定資産合計	1,006
資産合計	3,124
(負債の部)	
買掛金	166
短期借入金	604
一年内返済予定の長期借入金	228
その他	59
流動負債合計	1,058
長期借入金	761
固定負債合計	761
負債合計	1,820
(資本の部)	
資本金	862
資本準備金	1,328
連結剰余金	873
為替換算調整勘定	12
資本合計	1,304
負債、少数株主持分及び資本合計	3,124

第1四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	平成14年6月期第1四半期 自平成13年7月1日 至平成13年9月30日
売上高	288
売上原価	191
売上総利益	97
販売費及び一般管理費	197
営業利益	99
営業外収益	3
営業外費用	6
経常利益	102

- 注意事項 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。
2. 当四半期決算の数字は、監査法人の監査を受けておりません。

(4) 第1四半期単体財務諸表
第1四半期単体貸借対照表

(単位:百万円)

	平成14年6月期第1四半期 (平成13年9月30日現在)
(資産の部)	
現金及び預金	1,059
受取手形及び売掛金	334
有価証券	100
たな卸資産	287
その他	35
流動資産合計	1,816
有形固定資産	922
無形固定資産	1
投資その他の資産	414
固定資産合計	1,337
資産合計	3,153
(負債の部)	
買掛金	165
短期借入金	604
一年内返済予定の長期借入金	228
その他	56
流動負債合計	1,055
長期借入金	761
固定負債合計	761
負債合計	1,816
(資本の部)	
資本金	862
資本準備金	1,328
その他の剰余金	852
資本合計	1,337
負債・資本合計	3,153

第1四半期単体損益計算書

(単位:百万円)

	平成14年6月期第1四半期 自平成13年7月1日 至平成13年9月30日
売上高	288
売上原価	191
売上総利益	97
販売費及び一般管理費	175
営業利益	77
営業外収益	1
営業外費用	6
経常利益	82

- 注意事項 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。
2. 当四半期決算の数字は、監査法人の監査を受けておりません。